

請願や「斡旋」なら、却下してもいい

三〇八 ゲ・イ・ボキーへ

一九二一年八月九日

同志ボキー！

シェレヘス（ヤコフ・サヴェリエヴィチ）についての手紙のなかであなたは、レーニンにいたるまで「彼のために斡旋している」、「貴重品国家保管所の事件にかんしてはどんな請願や圧力もいっさい気にかけないことを許していただきたい」と書いている*。

そういうことを許すわけにはいかない。

私の問合せは、「斡旋」でも、「圧力」でも、「請願」でもない。

正しいかどうか疑問だと私に指摘した人がいるからには、問い合わせる義務が私にはある。

あなたには、要点をつかんで私に答える義務がある。「理由または証拠は重大なもので、これこれであり、私は釈放に反対、情状酌量に反対である」その他等々と。

まさにそのように要点をつかんであなたは私に答えるべきなのだ。

請願や「斡旋」なら、あなたは却下してもいいし、「圧力」は**不法行為**である。だが、繰り返えすが、人民委員会議長の問合せを請願や斡旋や圧力と混同するのは、まちがっている。

人民委員会議長 ヴェ・ウリヤンノフ（レーニン）

* 手紙のなかに述べてあるゴフラン（財務人民委員部貴重品国家保管所）事件は、ダイヤモンドの大量不足が発見されたことから起こった。ゴフランの価格査定人ヤ・エス・シュレヘスが貴重品窃盗で告発され、全ロシア非常委員会に逮捕された。1921年8月8日、レーニンはシェレヘス逮捕について全ロシア非常委員会副議長ウシリフトに問い合わせ、8月9日、それにたいする回答を同委員会参与ゲ・イ・ボキーから受け取った。この手紙は、ボキーの回答が不十分だったためレーニンの書いたもの。

本巻、文書一七三、一八〇、二一六、二二一を参照。

第四五巻 P287~288 『ゲ・イ・ボキーへ』

1921年8月9日に執筆

一九四五年に『レーニンスキー・ズボールニク』第三五巻にはじめて発表

手稿によって印刷